

## 2020年度事業 中間評価報告書（実行団体）

**提出日:** 2022年8月31日  
**事業名:** 被災当事者が復興後の地域活動の担い手となっていくための活動支援事業～南三陸町震災復興祈念公園の管理運営への住民参画を端緒として～  
**資金分配団体:** 一般社団法人RCF  
**実行団体:** 一般社団法人東北圏地域づくりコンソーシアム

### 評価実施体制

内部／外部	評価担当分野	氏名	団体・役職
内部	事業全体統括支援	黒田	一般社団法人東北圏地域づくりコンソーシアム 事務局長
内部	事業全体統括・現場担当		一般社団法人復興みなさん会 理事

### A) 事業のアウトカムの進捗状況の評価

#### ①短期アウトカムの進捗状況

アウトカムで捉える変化の主体	指標	目標値	達成時期	これまでの活動をとらえて把握している変化・改善状況
復興公営住宅等団地単位の自治活動とは別の枠組みによる住民活動の担い手が育ち、活動を実施していることで、生活に課題を抱えた住民を支えるコミュニティが生まれてきている。	生活に課題を抱えた住民層を対象とした新しい地域活動の活動頻度	町の中心部にある神社や復興公営住宅集会所等を会場として毎月2回程度、継続的に住民活動が行われるようになる。	2023年3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナの影響も深く、地域内で活動への参画についてネガティブな状況は継続していた。また、神社や復興公営住宅集会所等での取り組みは継続し、地域の方々の巻き込みは継続しつつ、各地区ごとの住民での継続的な住民活動について、改めて検討していく必要あり</li> <li>・その中で、移転先となる高台での6地区にて、地域で住民活動を以前実施していた自治組織(10～20名程度参加/地区)があり。その自治組織の活動復活が、住民間でぞまれていることが見えたため、その自治組織の代表へアプローチし、自治組織のコミュニティ活動を復活させることによる、孤立化する高齢者の継続的な集まる場づくりを進めている。今後は、この自治組織の代表と連携し、社会福祉協議会等との団体とも連携した、継続的な取組みをサポートしていく方向</li> </ul>
住民参加型で震災復興祈念公園を管理したり、住民団体が自発的に公園を活用したりする活動が習慣化し自走する。また公園設置者である町役場を含めた協議会が発足し、公園管理について協議する仕組みが構築されることで、新しいまちづくりの担い手どうしのネットワーク形成につながる。	①協議会の運営が安定して行われている。 ②公園をフィールドとした住民活動の頻度	①協議会が発足し、月例の会合として継続する。 ②2021年度中は月1回程度、2022年度は月2回程度	①2023年3月 ②2022年12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さんサポートプロジェクトをベースに主要な5団体(行政を含む)にて、1か月1回の会合実施していくことで合意。毎月、意見交換を行っていく方向</li> <li>・2022年度は、この会合にて、公園等の場の活かし方、地域内でのコミュニティ活動の企画・実施を行い、地域住民が参加する場づくりを推進していく方向</li> </ul>

②アウトカムの分析「⑧アウトカムの達成度」 (※任意)

評価小項目	評価小項目の評価結果	評価結果の考察
今回の評価では特段なし		

事業のアウトカムの進捗評価	評価結果の考察
事業のアウトカムの進捗の程度は、事業終了時には	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業実施する中で、事業実施当初からの課題として設定されている、「高台への移転に伴う、災害前の地域コミュニティが分断し、新しい生活地域における継続的なコミュニティが不足していること」、「新型コロナウイルス感染拡大と、10年目を迎え外部からの支援活動も減少していること」が理由にて、高齢者を中心とした引きこもり、地域内でのつながり不足が、事業開始後も継続している</li> <li>・上記課題へのアプローチとして、コミュニティ活動を引っ張るリーダーと継続活動の支援が一つ掲げられているが、活動を通して、移転後の自治組織の活動(6地区×20名程度)が止まっており、その活動の復活が、住民間でのぞまれていることを、地域団体・住民のヒアリングを通して発見できたこと、その活動自体の復活により、孤独孤立化する高齢者を中心にアクセスし、住民が参画する場ができていくアウトカムに近づけると認識している</li> <li>・また、町の象徴となる公園での活動を推進する団体の集まりを、行政含めて、月次で実施することに合意できたことは一歩となっており、2022年度は、その会議体での話し合いの内容、1つでも連携した活動を生み出すことにつなげたい</li> </ul>
FALSE 短期アウトカムの目標値を上回っての達成の見込みがある	
FALSE 短期アウトカムの目標値の達成の見込みがある	
TRUE 短期アウトカムの目標値はおおむね達成できる見込みがある	
FALSE 短期アウトカムの目標値の達成は不透明である	
FALSE 短期アウトカムの目標値の達成は難しい	
と自己評価する	

B) 事業の改善状況の評価

① 事業の実施過程・事業改善に関する評価

※評価項目・評価小項目は変更可

評価項目	評価小項目	評価結果	考察
⑤ 実施状況の適切性	・事前評価以降、事業を取り巻く環境（政策、経済、社会など）の変化はないか	・地域内で以下の変化が起きた －新型コロナの影響により、人の動きが減少。また、公式なコミュニティ活動もなくなり、拠点である集会所の利用も停止 －関係団体における活動も限定的で、今後について検討している状況	・左記、評価結果から、新型コロナ等の影響がある中でも動ける、連携できるコミュニティ活動を検討 －地域住民が近く関わる、小規模且つ身近なコミュニティの活動ではないと、新型コロナ等の影響により動きづらいと認識し、自治組織における活動を支援することで、住民が参加するコミュニティ活動の場をつくっていく動きを2022年度にかけて実施中 －コミュニティ活動の活動コンテンツを持つ、地域内のNPO等の地域団体ヒアリングを実施し、こういったコンテンツができるかを整理。上記住民の活動と合わせて、実施していく流れを検討中
⑤ 実施状況の適切性	・意図した対象者に事業は届いているか	・当初課題で考えていた、人とのつながりが不足している高齢者向けに事業を推進していたが、新型コロナ等により、想定よりも参加者が少ない状況であった	・左記状況を踏まえて、改めて、こういった高齢者へのアクセスについて検討し、地域住民が近く関わる、小規模且つ身近なコミュニティ活動を実施している、自治組織(6地区)の活動に着目。その自治組織向けに活動復活に向けて、支援を行っている。2022年度は、この活動が継続していく流れを改めて検討中
⑤ 実施状況の適切性	・当初設定された目標に対し、課題として想定されていた事項の解消に向けた活動の進捗は順調か	・神社や復興公営住宅集会所等での活動、それを維持していくリーダーの設定は、1年目として見直しが必要な状況 ・公園を軸とした活動団体、行政等の検討会議は、月1回開催が合意。今後、情報交換・勉強会・活動検討会を検討していく流れ	・上記のように、神社や復興公営住宅集会所等を活用した活動継続については、6地区における自治組織のリーダーとの連携した、活動復活に向けてのサポートを推進していくことで、動き出している状況。この活動をもって、課題で設定された高齢者の孤独孤立への動きを検討していく ・公園の事業は、今後どのような議論を行い、公園利活用を進めていくかが課題。本つながりをもとに、地域住民を巻き込んだ、コミュニティ活動の継続に向けて、会議運営を行っていく方向
⑥ 知見の共有、活動の改善	・アウトプット発生に影響を与えた阻害・貢献要因は何か	・新型コロナの感染拡大 ・震災後10年目にて、外部の支援団体が足を運ぶ機会の減少 ・地域内リーダーとなりうる方の選定先が、実行団体として限定てきになっていたため、拡張が必要	・リーダーというと、若手という考えで動いていたが、実行団体内で、30-40代へのアクセスを持っていなかった。そのため、現在の支援団体の活動状況、課題認識についてヒアリングを行い、改めて、キーとなる団体・個人について理解を深めた ・上記活動の結果、高台の住宅地で生活する高齢者に向けては、活動停止している自治組織へのアプローチをすることに決定。6地区×20人程度へのコミュニティ活動復活をサポート ・また、ヒアリングを通して、支援団体の動きを理解したため、公園主体のコミュニティ活動について議論する会議体等への巻き込みを推進していく予定

⑥知見の共有、活動の改善	・事業の進捗において必要な実施事業の見直しが行われているか	・地域内でのコミュニティ活動主体や、支援団体へのアプローチ手法を見直し	・コミュニティ活動の主体を、神社や集会所等の場ベースではなく、移転先となる高台6地区の自治組織ベースに切り替え。その活動が持続するために必要なリソースについて、2022年度検討継続 ・支援団体については、改めて現状・課題等を理解するため、ヒアリング実施。今後、支援団体の関わり方、コミュニティ活動継続に向けた連携も含めて検討継続
⑦組織基盤の強化	・団体運営の基本規定や運用体制などを構築できているか	・必要な規程等は整備済 ・現在の事業について実施できる体制整備済	・2022年度以降の活動については、どのような体制・財源で実施していくかは引き続き検討必要
⑧アウトカムの達成度	・事業を通して最終的に達成したい目標や短期・中間的なアウトカムは達成される見通しがあるか	・おおむね達成見込み	・「評価結果の考察」でのコメント参考

## ②短期アウトカムの状況の変化・改善に貢献した要因や事例

- ・現地の活動団体へのヒアリングにより、現状把握を実施したことにより、南三陸での支援団体の動き、南三陸での課題について認識した点
- 今後の連携先となる支援団体、コミュニティ活動実施における連携先の発掘につながる
- ・実行団体が把握している活動主体ではなく、個人単位⇒組織単位に切り替えることにより、活動停止していた自治組織を発見したこと

## ③事前評価時には想定していなかった評価

- ・事前評価時は、神社や集会所にて、リーダーとなりうる方を集めての活動を想定していたが、南三陸の高台の地区では、震災後も住民を巻き込んで動いていた自治組織が存在しており、その自治組織のリーダーと連携した、コミュニティ活動の継続という点に着目。その活動を通して、新型コロナ禍でも、顔見知りであり、気軽に声がけして集まりやすい場を復活する活動へとつながる可能性あり

## ④事業計画の改善の必要性の確認

- TRUE 社会課題のニーズに事業計画の内容は合致している
- TRUE 受益者や事業対象グループのニーズに事業計画の内容は合致している
- TRUE 事業計画に記載している活動は、アウトプット→アウトカムへのつながりが実際に確認できている
- TRUE 残りの期間の資金配分・人員体制・スケジュールは活動を円滑に行えるように計画されている
- TRUE 短期アウトカム指標は、事後評価時に測定し、達成度を評価することが可能な内容になっている

事業の改善状況の評価結果	評価結果の考察
<p>残りの事業期間で、事業が短期アウトカムを達成するために</p> <p>FALSE 事業計画は適切に改善されたといえる</p> <p>TRUE 事業計画を適切に改善する見込みがある</p> <p>FALSE 事業計画の改善について、課題が残っている</p> <p>と自己評価する</p>	<p>・当初掲げているリーダーについて、アプローチを変えることで、少し明確となってきた—高台にて孤立化する高齢者への活</p>

**⑤中間評価結果を踏まえて今後注力したい、または早急に取り組みたい事項をお聞かせください。**

・自治組織の支援をはじめたので、その活動継続については改めてアプローチを検討。体制・財源・支援団体とのマッチング等、継続していくための支援をしていきたい・公園プロジェクトは、

**添付資料** ※別途資料を作成している場合は提出  
活動の写真（画像データは1枚2MG以下、3~4枚程度）